

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 26

事業所番号	2691200105		
法人名	社会福祉法人 不動園		
事業所名	宇治やすらぎの家 1階		
所在地	京都府宇治市宇治戸ノ内22-6		
自己評価作成日	平成28年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	平成28年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム宇治やすらぎの家は、数多くの宇治の観光名所や商店街に程近くとも環境に恵まれた地域にあります。その立地条件を活かし、お天気の良い日はなるべく散歩に出かけたり、ドライブに出かけたり、活動的に過ごすことで身体機能の向上を目指すと共に、日常生活の中で個々の力を発揮していただける機会をつくれるようにして、また少しでも季節の移り変わりや賑わいを感じていただけるように取り組んでいます。行事の際にはご家族の方にもお声を掛けさせていただき、ご利用者・ご家族と共に過ごす時間を少しでも持っていたけように心がけております。音楽療法といたしまして二ヶ月に一度、ボランティアの方に来設いただけるようにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR宇治駅近くの住宅街にある開設5年、小規模多機能型居宅介護事業所を併設しているグループホームでえある。今年度当初に管理者、主任、ケアマネジャー等の主要メンバーの交代があり、併設事業所の管理者が兼務することになり、職員体制の構築に力を入れている。理念「育む」は法人理念の「共感と信頼」を育むことであると、職員同士のチームプレイを醸成するために、全職員参加で毎月会議と毎日朝ミーティングを実施し、職員間の風通しがよくなっている。家族との関係も良好で、夏祭り、クリスマス会、家族会への参加も多く、利用者の誕生日に花をもつて来訪する家族、お盆の法要の席に家族や親類と共に利用者が同席できるように連れにくる家族、孫の高校の文化祭と一緒に見に行こうと誘いにくる家族等々、協力的である。食事と外出には特に力を入れており、近くのすし店で握りずしを買ってくる日もある。ドライブは少しでも時間があれば出か、着いたところで散歩したり、利用者が好きな店を選んで外食したりしている。利用者は自分なりの日課で好きなことをしながら過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「共感と信頼」に沿った事業所独自の「育む」という理念のもと、ご利用者、ご家族との絆を育み、よりよい事業所になるように心掛けている。	法人の理念「共感と信頼」を踏まえて、宇治やすらぎの家の理念を「育む」と定め、玄関に掲示し、利用者や家族に契約時に説明し、運営推進会議でも周知を図っている。職員には朝ミーティングや職員会議で常に理念に立ち返るよう話している。「育む」とは利用者同士、職員同士、利用者職員が互いに共感と信頼をつくりあげることの意味しており、まず職員同士がお互いによく話し合い、意思疎通を図り、風通しのよいホームにしようと取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の福祉まつりに呼んでいただいたり、中学生の福祉体験の受け入れも行き交流を増やしている。	利用者はふだん近くを散歩したり、駅まで足を延ばして買物をしたりしている。利用者の友人の尽力で榎島小学校で行われた福祉祭りに参加し、利用者はフラダンスや合唱を楽しんでいる。事業所が開催した夏祭りには付近の人も参加してくれ、餅つきには保育園の子どもたちが来てくれる。中学生のチャレンジ体験を受け入れ、利用者は元気な中学生との交流を楽しんでいる。自治会に加入していない。	自治会に加入し、自治会が実施する様々な活動に利用者や職員が協力し、参加すること、オレンジカフェを開催し、認知症の周知啓発を行うこと、専門職集団として地域の人たちの介護相談に応じたり、在宅で介護している人へのアドバイスをしたり等々の地域貢献をすること、以上の3点が求められる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	検討課題であり、発信方法等を事業所で話し合う程度。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催。事業報告を行い、サービス向上に活かせるように意見交換行い出席の案内もグループホームのご家族に発送、参加の促しも行っている。	利用者、家族、学区福祉委員、民生委員、市高齢介護課、地域包括支援センターが委員となり、併設事業所と共に隔月に開催しているものの、利用者・家族が参加していない回もある。事業所からは広報誌の写真を含めて取り組みや事故の報告をし、意見交換している。「転倒骨折が多いのはなぜですか」の意見により、利用者にもっと自由に動いてもらうようにした結果、転倒骨折事故はかなり減っている。「ヒヤリハット報告書が多いですね」の意見には職員が小さいことでも報告書に書くことによって事故防止につながると説明している。	運営推進会議にはグループホームの利用者・家族に必ず参加してもらうこと、また職員さん、病院の地域連携室の人、近くの薬局の人、自治会長、駐在さん、消防署の人、スーパーの店長、小中学校の先生等々、地域資源の様々な人たちにゲストメンバーとして参加してもらい、事業所を支えてもらうことが求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者の方の運営推進会議への参加と、必要に応じ介護保険課と連携をはかっている。	市の担当者とは日常的に連携しており、利用者の個人情報に係ること等相談している。中宇治地区の地域ケア会議に参加し、情報交換している。認知症ネットワーク等、市の取組に協力している。市の介護相談員を受け入れ、毎月2回来訪し、利用者の話を聞いてくれる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯のため玄関は施錠しているが、連結している小規模の玄関は開放。各フロアは開放しエレベーター、階段も開放、スピーチロックについても認識している。	身体拘束をしないケアに取り組み、事業所内研修を実施している。スピーチロックについては朝ミーティング等で話し合い、常に認識するようにしている。拘束の事例はない。グループホームの玄関ドアと非常口は誰でも開けることのできる簡単な鍵を中から掛けており、エレベーター、階段は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として虐待防止委員会を立ち上げ、利用者の人権擁護、虐待防止に注意を払い、防止に努めている。引き続き周知に努めていく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もおられる。後見人の方とのつながりを大切に、活用できるよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設内容など、十分に説明し理解納得をはかり、契約後も話ができるように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回介護相談員来所。2ヶ月に1回の運営推進会議、年に2回は家族会を開催し、家族同士の意見・情報交換、要望をきき運営に反映させている。	家族には写真が多い広報誌を配布し、職員異動や行事報告等をしている。毎週面会に来る人もおり、夏祭り、クリスマス会に参加する家族も多い。年2回家族会を開催し、撮りためた写真をDVDにしてスライドを見せ、喜んでもらっている。家族同行の受診のときに「情報をもらえず、困った」という家族の意見にお詫びをし、改善している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回、人事調書として、各職員の意見を理事長に届けるようになっていました。また月1回の会議で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させるように努めています。	職員会議は併設事業所を含めて全職員参加で毎月、出勤職員全員参加の朝ミーティングを毎日、それぞれ実施し、申し送りと事業所内研修をしている。グループホームでは毎月の会議でケース検討と業務の話し合いをしている。会議では「そういうことはマニュアルにしてもらわないとわからない」「それはマニュアルにすることではないのでは」等、活発に意見交換している。法人内研修は新任、中堅、主任、管理者等、段階ごとに実施されている。事業所内研修は年2回実施、外部研修は適切な選択により受講させ、交通費等の補助がある。職員は各自の目標をたて、意見も含めて上司を通して理事長に提出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に応じて、必要な対応ができるように努めている。定期的に、意見や提案を聞く機会を設け、給与、労働時間、やりがいなど、働きやすい職場環境作り・条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福祉経験のない方でも、福祉に情熱をお持ちの方であれば採用し、資格などの習得も推奨している。また内部・外部研修にも出来る限り参加していただくように努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇治市の介護支援専門員連絡会に参加している。新規のご入居者がサービスを利用されるときは、その事業所に訪問させていただき、ご本人の状態はもちろん、情報交換を通じてネットワーク作りを心がけている。同法人内の他事業所にも出掛け交流している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の面接においては利用中のサービス先や家庭を可能な限り訪問し、本人の思いや要望を傾聴し、安心を得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	随時、電話での相談や施設見学等を受け付け、要望や不安を傾聴し良好な関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談、施設見学の際にサービスの説明を行い、必要に応じて他のサービス相談先を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	法人理念「共感と信頼」、事業所理念「育む」をモットーに支え合う暮らしが送れるように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には気軽に来訪していただいている。行事や家族会への参加も増え共に支える関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室に行ったり、友人の来訪があったりと今までの習慣、関係が途切れないように努めている。	利用者の行きつけの美容院に同行し、馴染みの美容師さんをお願いしている。住んでいた家に帰ってみたいという利用者で行き、家に入って少し過ごしている。京都の木屋町に住んでいたという利用者でかけ、馴染みの喫茶店を見つけ、利用者は思い出に浸っている。ふだんから誰か利用者の住んでいた家の付近をドライブするようにしている。居室にお坊さんが毎年2回お参りにくる利用者もある。友人と一緒に食事に行こうと誘いに来る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり合い、支え合えるように、時には職員が利用者の輪の中心になりより良い関係ができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	頻回とはいえないが、退居したご利用者に面会に行ったりとフォローに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中で、利用者・本人の思いや希望を汲み取るように努め、ケア会議、カンファレンス等で検討している。パーソンセンタードケアについても考えている。	利用開始時には自宅での面接や利用している事業所での面接等をし、利用者や家族、ケアマネジャーから情報を得て、アセスメントしている。「家に帰りたいけれど帰れない。お願いします」「何かすることはいいですか」等、利用者の思いを把握している。京都や宇治、島根等の出身地、専業主婦、銀行員、医者、ふとんの仕立て、組みひも等の現役時代の仕事、婦人会で活躍、卓球の国体選手等、生活歴を聴取している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族からの聞き取り、入居前にサービス利用されている方は担当者から情報を集めたり、サービスの利用先に訪問したりしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりや日誌、会議などで情報を共有し、現状把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議の場にご家族、主治医の参加は難しい現状ですが、日々の関わりの中や来所時、往診時に要望や意見をうかがい、介護計画を作成するように努めている。	介護計画はユニットごとに担当者が作成し、職員への周知を図っている。「歩かせてほしい」等、家族の希望も入れ、「人との交流」「健康管理」「好きなことをして過ごす」等、生活の楽しみをいれた介護計画になっている。介護記録は介護計画に添った記録になっていない。モニタリングは毎月実施し、「ケアの実施」「目標達成度」「利用者・家族の満足度」「今後の方針」について記録している。	介護記録は介護計画の項目を実施したときに、利用者の発言や表情、拒否があったときはその要因を記録し、モニタリングの根拠となるようにすることが望まれる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランをもとケアを行っている。変化があればその都度話し合いを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて柔軟な対応ができるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーへ買い物に出掛けたり、地域の催しに参加するなどしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回かかりつけ医が往診に来てくれている。本人、家族の希望により専門医を受診される方もいる。	グループホームの協力医が毎月2回、往診に訪れ、利用者の体調管理をしてくれる。歯科医は毎週往診に来てくれる。認知症に関して家族が同行して受診している利用者もあり、グループホームで把握している情報を文書にし、医師との情報交換をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設する施設の看護師や月2回の往診時の同行看護師と情報を共有し、処置やアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院に情報提供を行っている。入院中はできるだけ面会に伺い、状態の把握に努め、退院時にはカンファレンスに出席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者には事前面接時に説明。家族、医療、スタッフ、関係者で十分に協議して支援内容を決めていく。	利用者の重度化や終末期に関して、かかりつけ医がグループホームでの看取りを可能と判断し、利用者や家族が希望した場合は、グループホームとすることができるかぎりの支援をするという内容を、契約時に利用者と家族に説明し、意向を聴取している。多くの家族がグループホームでの看取りを希望しており、入院を希望する家族もある。昨年度事例を経験しており、職員には大きな学びとなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故・緊急時の対応マニュアルに沿った対応ができるよう取り組み、応急手当等の実践力の向上に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の義務づけられた避難訓練を行っている。	消防署の協力を得ながら、火事想定避難訓練を年2回実施している。地域の協力は得られていない。地震、風水害、夜間の訓練はしていない。備蓄、ハザードマップは備えていない。災害等の緊急時に法人内での相互の協力体制を作っている。	緊急時に備え、地震、風水害等、また夜間の避難訓練を実施し、地域の人たちの協力が得られるようにすること、備蓄とハザードマップを備えること、以上が求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重した言葉使いや対応を心掛けています。また研修を通じて理解を深めている。	利用者への対応や言葉遣いについては毎日実施する朝ミーティングで繰り返し取り上げ、注意している。初めて利用者に出会ったときのことを忘れないように、馴れ馴れしくならないように、長い人生経験を積んだ高齢者として尊重した対応をするように話し合っている。意思表示の困難になっている利用者にはその人の癖や表情を読み取るようにして、自己決定を支援している。	あ
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で本人の思いや希望が表せるように努めている。表現が苦手な方に対しては選択肢を用意するなどその人に応じた対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが、利用者のペースに出来る限り合わせるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の洗濯、整容になるべく本人にしてみたいところを職員がサポートするように心がけ、外出時等は化粧やネイルシール等をしていただき生活に張りをもっていただけるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備、後片付けなど、ご利用者と職員と一緒に楽しみながら取り組んでおり、ご利用者から自発的な意見を聞けるときもある。	毎週4日は2社から調理済みの献立がカロリー値、栄養バランスのデータと共に配達される。味や献立については検討を重ね、選択した社で、野菜が多く使われ、バラエティに富み、手作り感があり、朝食も品数の多い献立である。あとの3日は利用者と一緒に献立を考え、調理をしており、味付けのできる利用者もいる。いくつかの食卓に分かれて職員も一緒に会話しながら、食事を楽しんでいる。認知症の症状として食べることを忘れてる利用者には様子を見ながら介助している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎日記録している。個人の心身の状態に応じた食事形態や飲み物を提供している。栄養バランスを考えた食事を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛け、介助実施している。週1回程度歯科往診受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの状況に応じて声かけや誘導を行っており、トイレでの排泄を支援している。	尿意があり、自分でトイレに行く等、排泄の自立をしている利用者も半分くらいあり、他の利用者には排泄パターンを把握し、それぞれ個別に声掛け誘導している。排便に関しては水分補給、運動、ヨーグルト等の提供により、なるべく薬に頼らないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ティータイムにて乳製品を提供したり、体操・レクリエーションにより運動していただく機会の確保を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週2回以上の入浴機会を確保し希望に合わせて入浴できるようにしている。本人用のシャンプー、ボディソープを用意し楽しんでいただけるように支援している。	行事や往診等の都合で午前中の日もあるものの、おおむね午後の時間帯に入浴を行っている。1日3、4人ずつ、週2、3回を支援している。利用者は自分用のシャンプーやボディソープを使ったり、ゆず湯やしょうぶ湯を楽しんでいる。入浴拒否の人はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、活動的に過ごしていただき、生活のリズムを整え安眠につながるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳を管理し、内服薬一覧表を作成し、どのような薬を服用されているのかわかるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力を活かした役割を支援し気分転換していただけるように心がけ、外出や外食、喫茶店に行けるように心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望には応じきれていないが、天気の良い日は外に出かけるようにし、職員、家族とお墓参りやお祭り、孫の学校行事に出かけている。	ふだん近くを散歩することもあり、また少しでも時間があれば毎日のようにドライブに出かけ、木津川運動公園等、外出先で散歩をしている。御栗栖神社への初詣、お弁当を持って出かけたのに雨でホームに帰って食べた思い出の花見、大道神社への紅葉狩り等、季節の外出、湖岸をドライブして草津に行き、琵琶湖大橋を遠くに見ながら気に入ったものを選んで食事した春の遠足等、豊かな思い出をつくる外出をしている。おやつを買いに等の個別の外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度の金銭を持っている方もおられる。大半の利用者の方はご家族の同意のもと、事業所で管理させてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、相手側に許可を得た上で自由に電話をしてもらっています。年賀状や手紙のやりとりも支援させていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や季節感のある制作品、花などを飾り、居心地のよい空間づくりに努めている。	玄関脇のプランターに季節の花を植えている。ユニットの入り口を開けると広くゆったりとした居間兼食堂に利用者が4、5人ずつテーブルを囲んでいる。テレビの前に大きなソファとホームこたつを置き、落ち着いた雰囲気となっている。壁には利用者制作の季節の貼り絵、行事の写真、時計、大きな手作りカレンダーを掛けている。認知症の混乱を招くような大きな音や強い光はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	離れた空間にソファを置き、気の合った利用者同士が思い思いに過ごせるよう環境整備するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や使い慣れたものをもって来ていただけるようにしている。	利用者の好きな色をバックに利用者の名前を書いたプレートを居室の入り口に掛けている。洋間にクローゼットがあり、利用者はお気に入りの椅子、筆筒、整理棚、衣装ケース等を持ち込んでいる。棚には観葉植物の鉢、きれいな花瓶に花、亡夫や孫の写真、愛用の化粧品等を並べている。壁に自作の貼り絵、書、塗り絵、カレンダーを掛け、ベッドに置かれた布団や毛布、椅子の上のひざかけ等と共に、その人らしい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態把握に努め状態に合わせた環境作りに努めている。		